読んでみよう 解いてみよう
さん太のワークシート

就職や進学を機に地元を離れる若者が多い現実を踏まえ、対策を探るワークショップが新見市内で開かれました。記事を読み質問に答えましょう。

低学年もチャレンジ！

Q1

みんなが大きくなって「住み続けたい」「帰ってきたい」と思えるまちにするには、何が必要かな。自由に考えて書いてみよう。

Q2

今年の春に新見市内の高校を卒業して就職した人のうち、地元に就職した人の割合は31％です。市内中学生が地元の高校に進学した率は何％ですか。答えましょう。

Q3

ワークショップでは、参加者から改善に向けた提案も出されました。どんな内容がありましたか。第４段落を参考に二つ書きましょう。

若者流出の原因探る

産官学関係者らが議論

新見

ワークショップで意見を交わす参加者

就職や進学を機に新見市を離れる若者が多い現実を踏まえ、対策を探るワークショップが27日、市役所で開かれた。市内にも事業所や学校はあるのに、なぜ選ばれないのか―。関係者が意見を交わした。

まちを支える地場産業の活性化を目指す産官学連携組織「市産業振興会議幹事会」が主催し、企業関係者、中高教諭、市職員ら約30人が参加した。

今春、市内高校を卒業して就職した人のうち地元就職率は31％、市内中学生の地元高校進学率は56％となっており、低い数字にとどまる理由を考えた。就職に関しては「都会の方が給料が高いから」「地元企業を知らないのでは」、進学は「希望の学科や部活がない」「そもそも田舎から出たいと思っている」などの意見が出た。

改善に向けた提案としては、市内事業所での職場体験の充実、高校の設置学科・コースの見直しといった声が寄せられた。

これらの意見や提案は市が今後、施策の参考にする。

鈴木香幹事長(59)＝鈴木工業社長＝は「子どもたちに選ばれるまちにならなければ、未来はない。今後も課題を共有し、対策を考えたい」と話した。

（木村俊雄）

2023年９月30日付、備中面

過去の問題はこちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。